

❖❖❖ ある日の育児日記から ❖❖❖

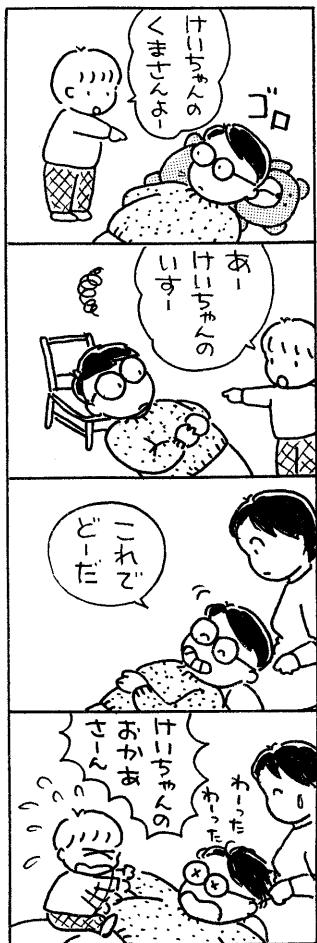
佐藤 和代

おなかの子は五か月にはいりました。つわりも一段落。でも、まだ体調は思わしくなく、圭と遊ぶ時間も少くなりがちです。

そんな中で救いなのは、圭のおしゃべりが上達したこと。言葉のやりとりで遊べるし、不満なことがあつても、気持ちを言葉で伝えられる分、落ちつくようです。

近頃は、こんな少ない語彙でよく表現できるなと感心してばかり。そういう能力は、幼児の方が大人よりずっと上ですね。

私が部屋を出ようとすると「おおかみがくるか



当分は、判じ物のようなかわいいおしゃべりが楽しめそう。他の人には通じないでも、お母さんにはちゃんとわかるのよ、と優越感にひたれるというオマケつきです。

らダメ」。ひとりになるのはこわいの、ということがでしおう。急に台所にやつてきて「あのね、お母さんがいいのー」と言うときは、ハハア、お父さんに叱られたな、と察知します。「カーンクーク食べる」「カーンクーク? なあに?」「あのね、ガサガサってね、にゅーにゅー(牛乳)とね…」こんなときの説明は真剣そのもの。「あー、コーンフレークね!」わかつてもらえるとニコニコ顔になります。

